



学校図書館だより

7月号



令和5年7月
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
菅原 修

期末テストも終わり7月に入りました。1学期も残り少なくなり、もうすぐ夏休みを迎えます。部活動や夏休みの学習計画と一緒に、読書計画も考えておきましょう。「いつか読もう!」と思って、そのままになっている本はありませんか?時間がたっぷりある夏休みは、読書のチャンスです!調べ学習や自由研究にも学校図書館を活用してください。



★新着本展示会★

新しい本が届きます!
ぜひ見に来てください!!

7/11(月)~7/14(金)の予定



夏休み本 特別貸出について

貸出冊数 ひとり 5冊まで

貸出期間 7/7(金)~7/14(金)

返却期間 9/4(月)~9/8(金)

延滞している人は、夏休みの本を借りることができません。急いで返却しましょう。



今月のおすすめ本

テーマは7月生まれの作家の本!

★出典★各出版社ホームページ

『生きるぼくら』

原田 マハ(著) 1962年7月14日生まれ

徳間書店 <913/ハラ>

引きこもりの青年が祖母のために取り組んだ米作りを通して、食べることの大切さ、家族のありがたさを噛みしめる農業・青春成長小説。コンビニ食ばかりで、食べることをないがしろにしてきた主人公が、お米のおいしさに感動するシーンは読者の年齢を問わず、大きな共感を呼ぶこと請け合い。

『香君 上 西から来た少女』

『香君 下 遥かな道』

上橋 菜穂子(著) 1962年7月15日生まれ

文藝春秋 <913/ウエ>

『精霊の守り人』『獣の奏者』『鹿の王』の著者上橋菜穂子の7年ぶりとなる新作ファンタジー。「草木や虫、鳥や獣、様々な生きものたちが、香りで交わっている無数のやりとりをいつも風の中に感じている、そんな少女の物語です。」

(文藝春秋ホームページ 著者コメントより)

『車輪の下』

ヘルマン=ヘッセ(著) 1877年7月2日生まれ

高橋 健二(訳) 新潮社 <943/ヘ>

ひたむきな自然児であるだけに傷つきやすい少年ハンスは、周囲の人々の期待にこたえようとひたすら勉強にうちこみ、神学校の入学試験に通った。だが、そこでの生活は少年の心を踏みにじる規則づくめなものだった。少年らしい反抗に駆りたてられた彼は、学校を去って見習い工として出なおそうとする……。子どもの心と生活とを自らの文学のふるさととするヘッセの代表的自伝小説。

『変身 改版』

フランツ=カフカ(著) 1883年7月3日生まれ

高橋 義孝(訳) 新潮社 <943/カ>

ある朝、気がかりな夢から目をさますと、自分が一匹の巨大な虫に変わっているのを発見する男グレーゴル・ザムザ。なぜ、こんな異常な事態になってしまったのか……。謎は究明されぬまま、ふだんと変わらない、ありふれた日常がすぎていく。事実のみを冷静につたえる、まるでレポートのような文体が読者に与えた衝撃は、様々な解釈を呼び起こした。海外文学最高傑作のひとつ。

柏市立図書館本館で「夏休み調べもの相談カウンター」を設置します。

●開催日 7月22日(土)~8月4日(金) ※休館日7/24、7/31(月)は除く

●時間 午後2時から午後4時まで

夏休み調べもの相談ができます。「〇〇について書かれた本が読みたい」「自由研究で〇〇について調べたい」といった、皆さんの調べもの相談ができます。相談だけなら、市立図書館の利用カードがなくても大丈夫です。

